

## Raymond Murphy Scholarship Report

ケンブリッジ大学の中でも教員養成で有名な Homerton で2週間 Language Improvement for Teachers というコースを受講しました。他に4回のワークショップ、2回の文化関連授業、2回の講演会など合わせて44時間の授業に参加しました。今回の講習会は、主にヨーロッパを中心に21ヶ国から200人以上の教員や教育関係者が、集まっていた。



主な授業内容はイギリスで良く使われる慣用句や句動詞などの語彙、イントネーションや文強勢、文法、ディクテーションなどを通して、特にリスニング力、スピーキング力を伸ばす授業でした。クラスには中国人、スウェーデン人がそれぞれ1名、その他はスペイン人で、日本人の私を含めて9名のクラスでした。授業では主にペアワークやグループワークが多く、協力し合い色々な問題を解きました。担当のブライアン先生からどうして今の活動をペアでやったかわかりますかと聞かれた時、ペアだと相談できるから安心できると言う意見が出て、全員がペアワークの効果を生徒の立場で実感することができました。

授業はテンポ良く、単語や文法を学ぶために色々なゲームを使って、難しい言葉も楽しく学ぶことができました。最後に先生が授業の中で使用されているゲームが掲載された本をお借りし、次の日の授業で自分が良いと思ったゲームを発表しました。全ての本が日本では見たことのない内容で、早速私も何冊かを手に入れました。8月末から始まる2学期から授業で使っていきたいと思います。これらの教材に載っているゲームの素晴らしいところは、遊び感覚で取り組めますが実際に生徒の英語力を伸ばすのにかなり役に立つところです。私が最も気に入ったのは' Vocabulary Games and Activities for Teachers' というものです。著者は Peter Watcyn-Jones です。他にもブラウン先生が物語をお話してくださるのを聞いた後、それぞれの場面において、自分がどんな風景を想像したかをペアに話し、その後それを使ってお互いの心理分析をする授業は本当に楽しく、授業に取り入れていきたいと思いました。今回、どの授業も構成がしっかりと考えられており、本当に有意義な時間でした。



他に Cultural Talks という文化的な事を学ぶ授業を2回受けました。10種類の中から選ぶのですが、私は1週目は' Discovering Hidden Cambridge' を受講しました。実際にケンブリッジに住んでいる人達に人気の路地裏にあるパブなどやその歴史を教えてもらいました。授業後、同じ授業を取っていた先生方と実際に教えてもらった場所を探しに行き、見つける度に大いに盛り上がりました。2週目は' British Music' を受講。今、実際にイギリスで人気のあるアーティスト

や曲について学びました。ワークショップは18種類の中から選ぶことができました。初めのワークショップでは‘Dictations are still alive and kicking’で‘Running Dictation’と‘Echoing Dictation’を学びました。後者は先生が読む文をグループの1人がリピートし、それを聞いて他のメンバーがリピートします。文が結構長く大変でしたが、グループのメンバーが助けてくれるので、楽しくできました。内容を少し優しくする事で、授業で実際に使えると思いました。

2回目は‘Activities and strategies for helping learners with spelling’でスペルを覚えられない生徒に有効な活動についてでした。ここでは Cuisenaire rods を使って最初にアルファベットを覚えさせる方法や、様々なゲームを習いました。その中でも‘spelling chain’というゲームは頭の中に文字を浮かべてアルファベットを順番に言っていくのですが、他の人が他の言葉を思い浮かべている場合、途中で変わって行きます。単語を完成してしまったら、その人が負けとなります。例えば最初の人が出す i と出して次の人が s と出してしまうと is となるので s と出した人が負けとなります。後はアルファベットを形で覚えさせるプリントを簡単に作成できるソフットの URN や、Hangman をネット上でできる URN も教えて頂きました。これも授業に利用したいと思いました。



3回目のワークショップは‘Update your English 2018’という授業で、最近よく使われるようになった言葉を先生が与えてくれる定義を聞いて、別々に与えられた形容詞と名詞などをくっつけて正しい単語を見つけしていきます。定義を考えながら言葉を学ぶことで、より深く頭に入りました。最後は‘10minute writing’でこの授業ではフィードバックの大切さを実感しました。更に、授業外でも本当に貴重な体験を沢山させていただきました。

週末や夜のアクティビティーも自分で選んで参加できるようになっていました。特に良かった事の1つ目が、パントでのケム川下りです。西には緑豊かな風景、東には壮麗なカレッジを見ながら、数学橋、クレア橋、ためいき橋と進んでいきます。パントを漕いでくれる学生の説明が綺麗なブリティッシュで、本当に至福のひと時を過ごしました。2つ目はケンブリッジ大学の生徒による無料の2時間のケンブリッジツアーです。本当に綺麗な英語でわかりやすく、年号等がスラスラと全て出てくる案内で、ケンブリッジ大学の生徒の優秀さに圧倒されました。又、ケンブリッジ大学に根強く残る男女差別の話や、各大学にまつわるガイドブックには載っていない話なども聞けました。



4つ目は7月、8月に実施されているケンブリッジシェイクスピアフェスティバルです。それぞれのケンブリッジ大学の庭で夜にシェイクスピアの劇を見る事ができます。椅子もありますが、多くの観客がシートを引いてワインとおつまみを持参して参加します。舞台と言っても目の前の芝生で、俳優が劇の途中で観客にワインをねだるシーンがあったり、俳優と観客の距離がすごく近く、最高に楽しかったです。私はキングスカレッジで上映された十二夜を見ました。

最後にケンブリッジにあるケンブリッジ出版に招待していただいた事も貴重な経験でした。出版社で初めて使われた印刷機なども見せていただきました。案内をしてくださった方はケンブリッジ大学のキングスカレッジの卒業生で、本当に綺麗な英語で案内が聞けて幸せでした。

今回のスカラシップでは数え切れない良い経験をさせていただきましたが、一番良かった事は色々な国から来た先生方とそれぞれの国における教育の違いや、問題点について話が出来たことでした。実際に先生方からお聞きした話は私の記憶にしっかりと残ると共に、帰国後は生徒達に伝えたいと思います。



今回ケンブリッジで勉強できたことで、自分の英語力をさらに向上させる必要があることを実感しました。日本の英語教育は大学入試の事もあり、かなり生徒に知識を詰め込む形になっています。今回教えていただいたメソッドを用いて、2学期からは生徒達が英語を使い活動する時間を毎授業少しでも作っていきたいと強く感じています。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった Mr. Raymond Murphy に心から感謝をしています。滞在中には自ら会いに来てくださり、話を本当に優しく聞いてくださいました。一緒に撮って頂いた写真は私の一生の宝物です。